

平成9年度からの大学入試センター試験の 出題教科・科目等について

〔平成6年6月15日〕
大学入試センター

新しい高等学校学習指導要領(平成元年3月文部省告示。以下「新指導要領」という。)に即した平成9年度からの大学入試センター試験(以下「センター試験」という。)の出題教科・科目等については、平成4年6月に公表した「基本的方針」に基づき、当センターの「大学入試センター試験教科・科目等検討専門委員会」(以下「検討専門委員会」という。)において詳細な検討を行い、昨年6月、「中間まとめ」として明らかにし、各方面の意見を求めたところ、大学、高等学校、関係団体等から多くの貴重な意見の提示があった。

当センターとしては、これらの意見を参考とし、高等学校における教育課程の編成状況や大学における利活用の方法等の調査を行い、検討専門委員会において更に詳細な検討を行った結果、下記のとおり最終的な結論を得たので、ここに公表するものである。

センター試験は、高等学校教育と大学教育の接点にあり、新指導要領を受けて展開する高等学校教育の多様化及び近年進展の著しい大学教育の多様化の双方に対応する必要がある。この観点に立って、具体的には6教科31科目を設定した。

出題教科・科目とその範囲の設定に当たっては、高等学校の教育に及ぼす影響について十分配慮しつつ、同時に、各大学の多様な入学者選抜に応ずる資料として十分な機能を果たすことができるよう配慮した。各大学において、センター試験の利活用の方法等を決定するに当たっては、この出題教科・科目の設定の趣旨に十分配慮し、当該大学・学部の目的、特色や専門分野等の特性に応じて科目指定等を行う場合にあっては、新指導要領の下における各高等学校の教育課程や生徒の選択する履修科目の多様化の状況を踏まえ、適切に対応することが望まれる。

なお、当センターにおいては、平成9年度からのセンター試験の問題作成等に関する具体的な事項についての調査研究を行うため、「新教育課程試験問題調査研究委員会」を本年4月に設置した。また、外国語におけるリスニング・テストの実施に関する設備・技術上の問題点の解決に向けて具体的な検討を行うため、「外国語リスニング・テスト調査検討委員会」を6月に設置した。

今後、これらの委員会をはじめ当センター内の関係委員会において、更に具体的かつ詳細な検討を進め、平成9年度からのセンター試験の実施に万全を期す所存であるので、関係各位のより一層の御協力と御支援を願う次第である。

記

1 各教科の出題科目等

国 語

「国語Ⅰ」及び『国語Ⅰ・国語Ⅱ』の2科目を出題し、1科目を選択解答させる。

(説 明)

新指導要領では、8科目(「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」「国語表現」「現代文」「現代語」「古典Ⅰ」「古典Ⅱ」及び「古典講読」)が設定されており、これらのうち「国語Ⅰ」が必修科目となっている。

また、選択科目のうち、「国語Ⅱ」以外の6科目が「国語Ⅰ」の内容を分化、発展させた科目であるのに対して、「国語Ⅱ」は「国語Ⅰ」の内容を総合的に受けた科目となっている。

このことから、必修科目である「国語Ⅰ」を出題するとともに、「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」を総合した『国語Ⅰ・国語Ⅱ』を出題する。

(注) 「 」は新指導要領による科目を、『 』は二つの科目を総合したもの又は二つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだものを、それぞれセンター試験の出題科目とすることを示す。(以下同じ。)

地理歴史

「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」及び「地理B」の6科目を出題し、1科目を選択解答させる。

(説 明)

新指導要領では、6科目(「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」及び「地理B」)が設定されており、これらのうち「世界史A」及び「世界史B」から1科目並びに「日本史A」「日本史B」「地理A」及び「地理B」から1科目の計2科目を選択必修としている。

したがって、すべての科目を出題する。

公民

「現代社会」「倫理」及び「政治・経済」の3科目を出題し、1科目を選択解答させる。

(説明)

新指導要領では、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」のいずれかを選択必修としている。

センター試験においては、科目の性格と目標に即して選択の幅を広げることを考慮して、「倫理」と「政治・経済」をそれぞれ独立させて出題する。

数 学

出題科目は4科目とし、次のように2グループに分け、それぞれのグループにおいて、1科目を選択解答させる。

グループ①：「数学Ⅰ」及び『数学Ⅰ・数学A』

グループ②：「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』

(1) 『数学Ⅰ・数学A』は、「数学Ⅰ」と「数学A」を総合して出題範囲とする。

ただし、次に記す「数学A」の4項目の内容のうち、〔数と式〕を含む2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。

数と式、平面幾何、数列、計算とコンピュータ

(2) 『数学Ⅱ・数学B』は、「数学Ⅱ」と「数学B」を総合して出題範囲とする。

ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。

ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布、算法とコンピュータ

(説明)

新指導要領では、6科目(「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」及び「数学C」)が設定されており、これらのうち「数学Ⅰ」が必修科目となっている。また、「数学Ⅰ」と「数学Ⅱ」の内容は従来より精選され、例えば、これまでの「数学Ⅰ」の内容項目〔数と式〕〔方程式と不等式〕の多くの部分が「数学A」「数学B」に移され、これまでの「数学Ⅱ」の内容項目〔数列〕が「数学A」に、内容項目〔ベクトル〕と〔確率と統計〕内の確率分布が「数学B」にそれぞれ移されている。

そこで、必修科目である「数学Ⅰ」を出題するとともに、大学・学部によっては、より広範な素養が求められることから、さらに、『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ』及び『数学Ⅱ・数学B』を出題する。

また、「数学A」「数学B」は、その内容を選択して履修されるので、適当と思われる2項目の学習を前提として出題することとした。

なお、「数学A」の内容項目〔数と式〕は、基本的な項目であり、他の項目が選択された場合にも、この項目の内容が様々な形で学習されると思われる。そこで、単に2項目の学習を前提として出題することを示すだけでなく、初めから〔数と式〕の内容の学習を前提とする旨を示しておくこととした。

理 科

出題科目は9科目とし、次のように2グループに分け、それぞれのグループにおいて、1科目を選択解答させる。

グループ①：「物理ⅠA」「物理ⅠB」「生物ⅠA」「生物ⅠB」及び「総合理科」

グループ②：「化学ⅠA」「化学ⅠB」「地学ⅠA」及び「地学ⅠB」

(説明)

新指導要領では、13科目(「総合理科」「物理ⅠA」「物理ⅠB」「物理Ⅱ」「化学ⅠA」「化学ⅠB」「化学Ⅱ」「生物ⅠA」「生物ⅠB」「生物Ⅱ」「地学ⅠA」「地学ⅠB」及び「地学Ⅱ」)が設定されている。

このうち、Ⅱを付した科目を除く9科目を総合理科、物理、化学、生物及び地学の5区分に分け、2区分にわたって2科目を選択必修としている。

したがって、9科目すべてを出題する。

グループ①とグループ②の科目配置は、受験者が理科を2科目選択する場合、これまでの受験科目の組合せ状況からみても物理と化学又は化学と生物の組合せが多い、と予想されること等を考慮した。

なお、ⅠBを付した科目の探究活動の設問に関しては、仮説の検証、データ処理など探究の過程を重視した思考力を問う形式によって対処する。

外国語

『英語』『ドイツ語』『フランス語』及び『中国語』の4科目を出題し、1科目を選択解答させる。

『英語』は、「英語Ⅰ」に加えて「オーラル・コミュニケーションA」「オーラル・コミュニケーションB」及び「オーラル・コミュニケーションC」に共通する事項とする。

『中国語』の出題については、「ドイツ語」及び「フランス語」に準ずる。

なお、リスニング・テストの実施について、設備・技術上の具体的な検討を行う。

(説明)

新指導要領では、英語については、7科目(「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「オーラル・コミュニケーションA」「オーラル・コミュニケーションB」「オーラル・コミュニケーションC」「リーディング」及び「ライティング」)が設定されており、これらのうち「英語Ⅰ」は最初に履修させる科目とされている。また、コミュニケーション能力の育成を充実するために、新たに設けられた「オーラル・コミュニケーションA」「オーラル・コミュニケーションB」及び「オーラル・コミュニケーションC」のうち少なくとも1科目を履修させるよう留意することとされている。

こうした改訂の趣旨に対応して『英語』の出題範囲については、「英語Ⅰ」に加えて「オーラル・コミュニケーションA」「オーラル・コミュニケーションB」及び「オーラル・コミュニケーションC」に共通する事項とする。ここで共通する事項とは、音声による活動を中心とした言語活動すなわち“聞くこと及び話すこと”と「英語Ⅱ」レベルの言語材料を指す。

『英語』以外の外国語の出題科目については、高等学校における「中国語」の履修状況が「ドイツ語」「フランス語」を上回っていること、また、現行のセンター試験の外国語科目にアジアの言語が含まれていないことを考慮して、出題科目に「中国語」を加える。

また、新指導要領の重点項目の一つが“コミュニケーション能力の育成”であることにかんがみ、外国語の運用能力の基本の一つである“聞くこと”の達成度を実際に音声を使って評価するために、リスニング・テストを実施することが望ましい。ただし、全国一斉に同一時間帯に実施するセンター試験においてリスニング・テストを実施することは、試験室環境の違いによる試験の公平性保持の問題や実施上の安全確保の問題等、その課題も多く、設備・技術上の問題点の解決に向けて、具体的な検討を行うこととした。

2 職業教育を主とする学科等における専門教育に関する科目の出題

「工業数理」「簿記」及び『情報関係基礎』を、数学のグループ②の「数学Ⅱ」及び『数学Ⅱ・数学B』と並置出題し、選択解答の対象とする。

(説明)

職業教育を主とする学科等における専門教育に関する科目の出題について、現行のセンター試験では、「工業数理」、『「簿記会計Ⅰ」・「簿記会計Ⅱ」』の2科目を「数学Ⅱ」と並べた選択科目として取り扱ってきたことから、「工業数理」及び「簿記」を数学のグループ②における選択科目として並置出題する。

また、新指導要領においては、社会の進展とその情報化への対応が特に重視され、専門教育に関する教科である「家庭」「農業」「工業」「商業」「水産」及び「看護」の6教科において、いずれも情報に関する科目が設置されており、これらは、原則として履修させること、あるいは努めて履修させることが望ましいとされている。さらに、新設された総合学科においても「情報に関する基礎的科目」が原則として履修させる科目として設定されていること等から考えて、これらに共通する内容の『情報関係基礎』を新たに数学のグループ②における選択科目として並置出題する。

(参考) 情報に関する科目

家庭科：「家庭情報処理」

農業科：「農業情報処理」

工業科：「情報技術基礎」

商業科：「情報処理」

水産科：「水産情報処理」

看護科：「看護情報処理」

3 旧教育課程を履修した者に対する措置

旧教育課程(昭和53年8月文部省告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程)を履修した高等学校卒業生等に対しては、出題する教科・科目の内容に応じて配慮を行うものとし、平成9年度及び10年度センター試験においてその措置をとる。

4 試験時間及び配点

各教科・科目の試験時間及び配点については、これまでのセンター試験との継続性等を勘案し、現行に準ずる。

(参考1)

大学入試センター試験に係る高等学校教育課程と出題教科・科目等(概要)

高等学校教育課程（平成6年度から学年進行）				出題教科・科目等（平成9年度センター試験から適用）		
教科	科目	標準 単位数	必修 科目 ○	備 考	出題科目 (予定)	備 考
国 語	国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ 古典・現代文 古文・漢文 国語総合	4 4 2 2 2 3 3 2	○		80分 200点	「国語Ⅰ」 「国語Ⅰ・国語Ⅱ」 左記の2科目を出題し、1科目を選択解答させる。 「国語Ⅰ・国語Ⅱ」は、「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」を統合して出題範囲とする。 （2科目）
地理 歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理	2 2 2 2 4	)		80分 100点	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」 左記の5科目を出題し、1科目を選択解答させる。 （6科目）
公 民	現代社会 倫理・政治・経済	4 2 2	○ 又は ○	現代社会 又は 倫理・政治・経済 現代社会又は「倫理、政治・経済」のうち、どちらかを1つ必修	60分 100点	「現代社会」 「倫理・政治・経済」 左記の3科目を出題し、1科目を選択解答させる。 （3科目）
数 学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B 数学C	4 3 3 2 2	○		70-70 60分 100点	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」 左記の2科目を出題し、1科目を選択解答させる。 「数学Ⅰ・数学A」は、「数学Ⅰ」と「数学A」を統合して出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、「数」と式を含む2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 数と式、平面幾何、数列、計算とコンピュータ
数 学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B 数学C	4 3 3 2 2	○		70-70 60分 100点	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「工業・物理」 「情報関係基礎」 左記の5科目を出題し、1科目を選択解答させる。 「数学Ⅱ・数学B」は、「数学Ⅱ」と「数学B」を統合して出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 職業教育を主とする学科における専門教育科目については、「工業・物理」及び「情報」に関する6教科（「物理」「化学」「工業」「物理」「化学」「物理」）及び「情報」に関する6教科（「

② 1 □ は必修科目、□ は選択必修科目、□ は選択科目を、各科目の枠の高さは標準単位数を示す。

2 「」は新指導要領による科目を、「」は二つの科目を統合したもの又は二つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだものを、それぞれ大学入試センター試験の出題科目とすることを示す。

(参考2)

高等学校教育課程新旧比較表(概要)

教科	新教育課程(平成6年度の1年生から学年進行で適用)				教科	旧教育課程(平成6年度の2・3年生及び7年度の3年生に適用)			
	科目	標準単位数	必修科目	備考		科目	標準単位数	必修科目	備考
国 語	国語 I	4	○	国語 I 現代文 古文・漢文 古典・現代文 国語表現 国語総合	国 語	国語 I	4	○	国語 II は、国語 I に引き続き、すべての生徒に履修させることが望ましい。
	国語 II	4	○			国語 II	4	○	
地 理	世界史 A	2	)	世界史 A 世界史 B 日本史 A 日本史 B 地理	社 会	現代社会	4	○	当分の間、特別事情がある場合は、「現代社会」は「倫理」「政治・経済」の履修をもって代えることができる。
	世界史 B	2				現代社会	4	○	
公 民	現代社会	4	○又は○	現代社会 倫理・政治・経済	数 学	数学 I	4	○	数学 II は、数学 I に引き続き、すべての生徒に履修させることが望ましい。
	倫理・政治・経済	2	○又は○			数学 II	4	○	
数 学	数学 I	4	○	数学 I 数学 II 数学 A 数学 B 数学 C	理 科	総合理科	4	○	総合理科 物理 I 物理 II 化学 I 化学 II 生物 I 生物 II 地学 I 地学 II
	数学 II	4	○			物理 I	2	○	
理 科	総合理科	4	)	総合理科 物理 I 物理 II 化学 I 化学 II 生物 I 生物 II 地学 I 地学 II	外 国 語	英語 I	4	)	英語 I 英語 II ドイツ語 フランス語
	物理 I	2				英語 II	4		

② 1 □ は必修科目、□ は選択必修科目、□ は選択科目を、各科目の枠の高さは標準単位数を示す。

2 旧教育課程の科目の網かけは、現行の大学入試センター試験で出題科目となっているものを示す。